

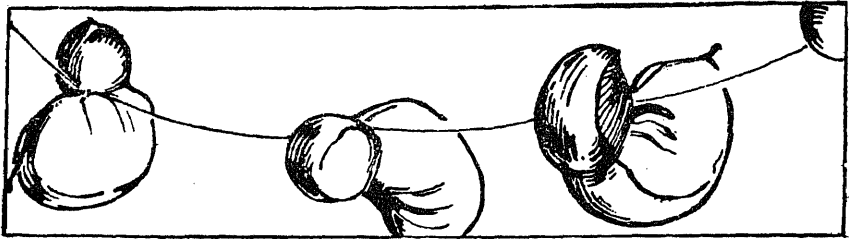
幼見之教育



第 七 號 七 月 號 第 四 十 四 卷

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會



第 七 號 幼 兒 教 育 第 四 十 四 卷

— (次 目) —

保育實習の指導……………(一)

保育實習指導概要……………倉橋惣三(一)

子供の健康の見分け方……………内藤壽七郎(三)

躰の指導……………及川ふみ(七)

遊戯について……………福田靜子(一〇)

談話の指導……………安村ふさ(三)

手技の導き方……………上遠文子(五)

觀察について……………清水光子(七)

自由遊びの指導……………志村貞子(九)

防空訓練と幼児……………關登美子(三)

一日の保育計畫の立て方……………菊池ふじの(三)

保育實習の指導

保育實習指導は高等女學校校保育實習の場合には素より、隣組保育といつたやうな問題に對しても、今日の急務になつてゐる。師範學校の場合には専門的であるが、その他は決戦下の必要として

一般に要求せられる。又現に要求せられ實行せられてゐる。その實習指導の用意について此の號を特輯した。おのづから保姆諸君の實際保育の上にもお役に立つと思ひつゝ。(編輯子)

保育實習指導概要

倉橋惣三

實習指導の要諦

指導の對象は高等女學校の生徒、すなはち、保育の未経験者であり、又その目的も必ずしも保育専門家になることを志ざしてゐるものでもない。といふと如何にも指導甲斐が少ないやうであるが、國の幼兒を大切にすることの意味はよく分り、子どもといふものへの情愛も、人間常識も一通り發

達してゐる年頃である。保育指導の手が、りは充分具つてゐるといつてよい。そこで、保育指導の大もととして、先づ、國の幼兒の大切さといふことを、しっかり理解させることが必要であるが、それを觀念的に明確にするのは豫備講話ですることとし、實は、保育の實際の中で、その信念が實踐的に強化せられなければならないので、たと觀念として終つてはならないので

ある。現に實際に大切にしていることで、それが信念化せられなければならない。自ら大切にする任にあたらないうで大切だくと論ずるだけではなんの眞實もない。

保育指導の大もとの第二は、幼兒の保育法の要諦を把握させることであるが、これも普遍的な保育理論から導いたり、餘り細かい保育技術を初めから授けたりするよりは、生徒自身が教養ある青年女性として持つてゐる幼兒への情愛と常識とを、素直に、殊にみづ／＼しく發揮させることから出發したい。理論や方法の普遍規格のみを氣にして、どうすべきか、どうしなければならぬのかといつた風な思案ばかりさせて、折角の情愛と常識とを抑へさせたり閉ざさせたりしてはならない。殊に、そんな形式的指導に過ぎて、情愛のあた／＼かさもなく、常識のなま／＼しさもない、「冷いから誤らない」といつた辭をつけては大變悪いことである。その意味で、眞の指導は、幼兒の前に女生徒を一げいに生きて動かすのでなくてはならない。従つてまた、技術として下手でも、方法として多少間違ひをしても、ほんとうにその子への情愛と自分の常識が

ら出る保育をその眞實と親切とを高く認め
てやるべきである。

實習指導の内容の一

一日の保育は、なんといつても子ども
その日の健康の見診から出發する。朝夕々
に迎へる幼兒を一目見て、その健康の狀態
に氣がつかなくてはならない。全體の健康
は勿論、目や鼻や耳の部分々々まで、精確
な診断はあとで丁寧に行たり、専門家を俟
つとして、兎に角く異常がないかといふこ
とには、直觀的に氣がつくやうに慣らされ
なければならぬ。集團保育の中でも一人
一人に就て見落しなくそれが出来るやうに
ならなくてはならない。

健康ばかりではない。頭髮、手足、衣服
のはし／＼に、すらつと氣が配られ目が届
かなくてはならない。こういうことは、慣
れることによつてよく出来るが、その根本
となるものは、親切の有無深淺に基く。し
んみのじつがなくては、保育は出来ない。
指導して、日に／＼子どもへのじつ、の出来
るやうにしたい。しんみに世話の出来るよ
うにしたい。

實習指導の内容の二

保育は、こつちからしてやることでもお
るが、實は、相手を受けることであること
が多い。その受け方こそ、最も大切な指導
の内容である。

話しかけ方も大切だが、子どもの方から
の話しを受け方こそ、もつと大切である。
「い、お返事」といふことは、子どもに訓練
する必要があると共に、子どもに對して、
先生たる女生徒に訓練する必要がある。

相手を受けることが、よい返事のし方は
かりで終らないのは勿論である。ほんとう
に幼兒の心の受け方は、絶えずこまやかな
指導を要する。そのために必要な一つは、
幼兒とよく話の出来ることである。こちら
からのお話のし方の外に、たゞなんでもな
く、幼兒とする朝の出會ひ話から、廊下の
立話、運動場の話あひ、みんな、大切なも
のである。話をして聞かせることばかり好
んで、話を聞き、話をしあふことを好まな
いやうな、小ぢんまりした先生保母をつ
つてはならない。

實習指導の内容の三

話しあひと共に、或はそれ以上一層大切
な内容、少なくとも一層多い内容は、幼兒と
いつしよに遊べる者にするものである。こ
れなしに保育者であり得ない。

幼兒の遊ばせ方といふ言葉がある。又そ
の技術秘法がありそうにもいはれる。しか
も、遊ばせるよりもむつかしいこと、且先
づさきになければならぬことは、幼兒と共
に遊べることである。眞に遊べることであ
る。この點若い高女生は極めて好適者であ
る筈である。先生の稽古をさせる前に、よ
き姉友として幼兒といつしよに樂しみ遊び
得ることを伸ばしてやらなくてはならぬ。
たゞ、このお姉ちゃんが多くが、短い
間、殊に自分の氣の向く短い間だけはよく
遊ぶが、それが長つゞきしないこと、多
くはむら氣であるので困る。指導の必要は
こゝにある。

實習指導の内容の四

かうして話をしあひ、いつしよに遊ぶこ
とで、既に大きな保育であるが、苟も保育

たる以上、個々の幼児をよく知り、その個性に基いて躱げの方針を立て、ゆかなくてはならない。つまりは、幼児ひとりひとりの性質の知り方と、それに對する態度處置の定め方との指導が必要である。これは必ずしも心理學的といふ程のことではなく、決して一々心性査定を方法的に行ふといふことではない。それとして必要もあり、またその方法も學ぶがよいとして、實際の保育——殊に話あひと遊び相手との間において、おのづからそれが出來てゆくように指導したのである。

大きな躱げに就ては、その要點も要領も、保育上素より極めて大切である。しかし短期の保育實習では、躱げの結果を擧げるといふよりも、個々の幼児に就て、何を躱げ、どう躱げることが必要かを、懇に氣が付き得ることが大切である。指導もこゝを目標にしたい。

實習指導の内容の五

個の凝視、個の躱げの工夫の他に、集團を集團として把握し保育することの指導は、高等女學校保育實習指導の一つの必須

の内容である。この新課程の目的の少くも一つがこの點にあるからである。一旦の非常時、幾人かの幼児の集團を、一人をも見失ふことなく、一人にも自分(保姆)を見失はせることがなく、しつかりと、しかもやんわりと、手中に置くことを得させなければならぬのである。しかもこれが高女生にとつて、最も容易でない。といつて、つづけさまに整列させたり、一と束にして置いたりすることは出來ないし、してもならない。幼児群らしい形はとらせて、しかし散逸散亂させないことが必要である。

お話や紙芝居で、一點に引つけて置くのも一つの方法である。しかし、そういふ時でさへ一人の子どもをも、見落してはならないし、忘れてはならない。又必ずしも自分の目の前にまとめてのみ置かないでも、

心の目が、ちやんと一人々々の有り場を追つてゐなくてはならない。つい一人二人を置き忘れ——場から又心から——たら、羊の群を指導する犬にも劣るといふことになる。

たゞ、この指導はなか／＼むつかしい。經驗を積ませるよりし方がない。まあ女生徒銘々に幾人かづゝの幼児を分擔させて、責任を以て引受けさせることである。綜合實習では、時間的に保育の繼續を經驗させると共に、場所的に保育の行き届きを經驗させる意味をもつ。即ち、個々に手が行き届き、集團に氣が配られ届くことに外ならない。その熟練の完きを得るは難いとして、その方向に指導することこそ、保育實習指導の全面的一大眼目といつてよからう。

子供の健康の見分け方

醫學博士 内藤壽七郎

健康と云う言葉は甚だ解り易いやうでも、又反面却々理解し難いことである。即ち健

康と云うものに對する定義が醫學上明確を缺いてゐるからである。山本康裕博士は「健

康とは總ての機關の状態及び機能、並びに一般免疫力乃至抵抗力が、從來よりの醫學的經驗に徴して生理的範圍にあること」と述べて居る。即ち健康であるか否かの判定は却々難しいのであつて、一寸本人を診察しただけで健康體とか、不健康體とか云うことは大なる危険が伴ふもので、或一定期間觀察した上でなければ解らないのである。即ち、其の間に於ける子供の其器官の機能が生理的であるや否やと云うことについて、即ち例を胃腸の機能にとれば少し大豆の混入の多い御飯を食べるとすぐに翌日は下痢をすると云うものがあつたとする。

併し多くの子供達はいくら大豆が混じていても一向平氣で毎日有形便を出してびんびんしてゐるとする。即ち前者は消化器の機能が生理的でないことが分る。免疫力に於ても、多勢の中には一寸氣候が不順になつたりするとすぐに風邪を惹いてお休みをする子供がある。此の場合他の大多數の子供は風邪を惹かないで無事通ひ通してゐるとする。前者は即ち免疫力の不充分なることを意味するものであつて、斯くの如く、長期間に亘る觀察を経て初めて判定なし得

るもので、健康と云う様なことを醫學的に正確に判定することは容易なことではない。

私は今茲に健康と云う言葉の醫學的な解釋を離れて、唯「病氣でない」子供と病氣の子供、殊に潜在性の場合、例へば疫痢に罹つてゐても未だ初期で其の特有の症狀を示さず、表面は一見して普通の子供と同じやうな様子をしてゐるものと、或は百日咳や麻疹等でも其の初期であつて未だ特有の症狀を現はさないで、併も大勢の子供の中に混じつて活動してゐる場合とか云うものについて少し述べて見たい。

機嫌 機嫌のよささうな顔つきは實によく體内の諸器官の正常状態にあるか否かによく示して呉れる。熱が三十九度或は夫以上に昇つてゐても赤ちやんがあやせば笑うと云うやうな時は私達小兒科醫師は、先づこれなら入院とか、輸血とか云つて騒ぐには及ぶまいと云う氣持ちになる位である。

顔つき 熱は三十七度に達するか達しないやうな場合でも、疲れきつたやうな、ぞんよりした眼つきを見たら何か重大な病氣が體内に潜んで之から現はれて來るのでは

あるまいか、或は既に起つてゐるのではあるまいかと心配させられる。眼の中でも白い所がすんでゐなくて濁つて來る。疲れたいやうな目つきで生々としてゐないのである。顔つきの中でも、不安そうなの、何か落着きのないそはくしてゐる様に見へることも、他方ぼんやりして、寢不足でもしてゐる様な風に思へるのも共に病的な顔貌と思はなければならぬ。こんな場合はすぐ不機嫌な子供を見つけた時の處置として、體温を計つて見るとか、體温計がなかつたら寢かしてから數分間安靜をどらせた上で脈搏を數へなければならぬ。參考迄に幼兒の脈搏數を示すと、

130—140			
	130	125	125
		120	
	男	106	108
		100	103
		96	100
		94	97

であつて、右は平均値であるから、之に十位多くても、直ちに熱のある徴とは云へな

いが二十以上も多い時は熱があるものと考へて處置しなければならぬ。殊に脈搏は熱發に先んじて變化を示すことが多い。瘦痢の初まり時など子供が未だぐつたりして元氣がない、熱は計つたが未だ平熱だと云う時、脈搏は既に奔馬の驅る如く頻數となつてゐることがある。

不安そうな顔つきも、子供達が未だ保育所等の建物や、人に馴れない中は、神經質な子供であれば屢々見受けられるし、そんな時「貴方に一寸熱がありそうだから此方へお出で」など、大仰なこと云つたりしたりすると、寝かされて脈搏をしらべる時所謂胸ささぎが起つて來て脈搏が多くなるから、脈搏などをしらべる時は極めて自然な態度で子供に不安の念を起さしめないで繪本を見せるとか、好きな話をするとか、殊に三―四歳位の子供に効果のあるのは食べもの、話などをしてやるゝ氣分を落ちつかせて呉れる。

無慾狀のぼんやりとした顔つきをしてゐても、夫が智能發育不全の爲に所謂痴呆に由來することもあるので唯最初一回見ただけでは、先天性の痴呆なのか又は急性の病

氣の爲に起つてゐるのかわからない。いつも活潑な子供が今日はどうしたのかぼんやりした顔つきだと云う時にのみ問題となるのである。前夜睡眠が不足したか又は何か病氣の起つて來る前にこんな状態を呈することがある。

顔の紅味 健康な乳兒は皆頬部が紅い。

蒼白な時は貧血か又は發熱等の異常の場合である。幼兒でも、頬の赤味が兩方の頬に見られないで片方の頬のみ赤く、而も夫が頬紅でもつけた様な桃色か、つた色調を帯びてゐる時は病的反徵である。多く軽度の熱のあるときに見られる。若い場合は皆貧血にしてしまつてはいけないので貧血と云う場合は必ず眼瞼を下に引張つて眼瞼粘膜の赤味があるか又は白味を帯びてゐるかをverること、又爪の色を見て赤味があるかないかを驗べて見る。赤味があれば夫は假性貧血であつて問題にする必要がないからである。貧血のときは蛔蟲や十二指腸蟲等の寄生蟲や、肺門淋巴腺、結核其他潜伏性の結核等色々のことを心配しなければならぬ。

暖 俗にかう咳と稱してゐるのは咽頭、

喉頭等の刺激によつて出る痰を混じへない場合であり、之に對して痰を混へる咳がある。乳兒幼兒では喀痰の排出が出来ないで皆嚙下してしまう。喀痰の混る場合は、氣道や氣管の粘膜に炎衝性の分泌物が出來てゐるので、此の場合は種々の咳を伴う病氣でも初期であるから既に相當進んだ時期とか、恢復期等に認めらるゝのであるから、咳の他に感冒なら感冒、氣管枝炎なら氣管枝炎と、それゝの病氣の特徴が他にも認められるのであるが、問題は刺戟性の所謂から咳である。

からつ咳の場合は感冒、百日咳や麻疹の初期、肺門淋巴腺腫脹の場合等に見られる。之等の病氣の極めて初期では其の咳を一寸聞いただけで、これは百日咳になる咳、之はデフテリーの咳とは斷定することは困難である。少し咳の經過を見る必要がある。理想的なことを云へば、から咳の出る子供は其の日一日別にしておいて觀察するか或はさうも心配であつたら其の本態が明になるまで皆と一緒に保育すると傳染の心配なしとしないから保育を斷る位にした方が望ましいことである。

チフテリーの場合は咳は素人がよく云う様に犬吠性の、きよほん／＼と云う響を有することが屢々あるのは事實である。併しきよん／＼と云う咳が總てチフテリーとも云へない。怪しい場合は子供を室の明るいの所につれて行つて匙の柄で舌を壓さへて咽の奥を見ることである。チフテリーの場合は白斑が兩側或は片側の赤く、梅干しの様に腫れた扁桃腺の上についてゐるのが認められる。勿論此の場合熱があつたり、唾飲みをさせると痛がつたりする。喉頭チフテリーの場合は扁桃腺に白斑が見られないで、犬吠性の咳と毎日々々弛張熱が續くこととそれに伴つて聲が嘶れて來るし、咳も日を経ると共に多くなることが注意される。

百日咳の咳、剛れた看護婦なら病院の待合所や、電車の中でも咳だけ聞いて、初期の即ち未だ百日咳特有の後へ引く咳をしない中から發見出来る。この咳は必ず息を吸ひ込む暇なく、一度咳が出るごあくまで胸の中の空氣を出し切つてしまふと云うやうな調子を示すので、従つて一回の咳の時間が長い。そして強い咳で咳の時兩肩が動き、顔が眞赤になり、時には目に涙がたまつたり、咳のあとで粘々した唾の濃ゆいやうなものな口からだらりと出したりする。御飯を食へたあとなどであれば咳のあとで吐いたりする。百日咳の咳は晝間は割合に輕い夜分殊に夜中から明け方に多いのが特徴であるが、之は家人の方に尋ねないと解らない。又百日咳の咳は最初極めて初期のものゝは感冒性のものと何等異なる所がないと云つてもよいが必ず二―三日中に其の本性を現はして來て強い咳長く續く咳が一寸驅けさしたりした後に出て來る。そして咳の回数も日を経るに従つて多くなるのである。併し百日咳の豫防注射を今迄數回受けてゐるやうな子供ではあまり特にな咳をしない中に經過し終ることもあり、之等の子供が他の兒に感染させることもあるが之はさうも普通一般の保育所の場合には已むを得ないことである。後へ引く即ち笛聲を發しない内に即最初一二週の間加答兒期の中に發見してやれば其の子供にとつても又他の子供にとつても幸である。

麻疹の初期の場合、麻疹の初期もこの刺戟性のからつ咳が出る。私は今迄咳の全く

出なかつた麻疹患者と云うものは見たことがない。お母さんがこの子は麻疹をしましたと云つて話しをされても、其の時咳がなかつたと云はれたとすれば私は其の麻疹は本物ではないものご考へてよいと思つてゐる位麻疹には咳はつきものである。刺戟性の咳が段々多くはなるが百日咳の様に一回の咳込み方が長いことはないし又夜分に多く晝間は忘れた様に少ないと云うこともない。然し眼脂とか、之に伴つて嚏とか鼻汁とかの鼻咽喉加答兒の特徴が後になる程強くなつて行く。百日咳の場合は反對で最初に鼻頭のカタル症狀が強く後になる程弱まつて來るのである。麻疹に特有な、口腔内部(頰部)粘膜のコップリック氏の斑點などが現はれるころは熱も高いし咳は最高潮ではあるがこゝな子は保育所に來ない。

潜伏性の肺門淋巴腺の腫脹の時は唯時折り輕い刺戟性の咳だけが出たり、時には百日咳と紛らほしい強い長い咳をすることもある。こゝな兒は食慾不振がつきものである。咳の出る子供に遭遇したら以上のことは心得ておいて載くのと同時に、家庭内に今百日咳の兄弟はゐらないか、麻疹で寝てゐる

る姉妹はゐないが、家族内に殊に母親などが結核であるかどうかを問い正しておく必要がある。若しそんな兄弟があつたとして、其の子供が刺戟性の咳を初めたとしたら直ちに、此の咳は百日咳の咳の初期のものとか或は麻疹の初期のものとかと想像されるのである。

食欲不振 お晝とかお入つの時の食べ方を見てゐると大體解る。併し大勢の子供と一緒にだそう食べたくないものでも食べてしまうことがある。此の際馴れた保姆さんであるとき必ず御飯を残すか残さないかに注意をしてゐる。又保育兒を受取る場合必ず今朝の御飯はよく食べて来たか否かを問ひ直す可きである。御飯も食べないで来てなるとなく元気がない様子であれ早速前述の脈搏の測定と、出来得れば計温をしてやらなければならぬ。斯の様に急激に來た食欲不振に對して、慢性の即ちいつもお晝御飯を残すと云うやうな場合は必ずツッパルツリンの反應を檢査してやらねばならない。

腹痛のある場合 ほん／＼が痛いよなど教へてくれるのはまほぶの場合で、多くは前くぐみになつてじつとするとか、泣き出

すとか云つたことになる。お腹が痛い泣いてしばらくするとけろりとしてゐるのは再發性腹痛症と云つて三―四歳位の神經質の子に見られる。此の場合熱はない。灌腸などすると硬い便が出る。便秘性のものが多い何等心配はいらない。

熱がなくとも心配なのは腸閉塞や蟲垂炎(盲腸炎)である。時には脱腸の嵌頓症がある。これ等の場合腹痛は長い間斷續的に見られて、苦悶の状を呈する。遊戯中一寸お腹痛いと云つて泣いて又しばらくするとけろりとするとか云う場合と異り早く醫師の所へ届けなければならぬ。

躰の指導

戦時下の幼稚園、保育所で幼兒の躰の問題は保健問題と共に、常に保育の實際にあつたものが二つの大なる保育目標として考へられてゐることは今更いふまでもない事である。皇國幼兒としての基礎的鍊成はこの二つの目標の達成によりて出来るもの

以上を要約して見ると、

顔に生氣のない兒を見た時 處置(脈搏の測定、計温)

熱なくとも脈搏の早い場合 發熱の前驅

期(感冒、疫痢)、神經質兒

顔色の紅味 片側のみの時は輕熱、蒼い

時、寄生蟲、結核

咳が乾性で刺戟性のとき 感冒の初期、

麻疹の初期、百日咳の初期、肺門淋巴

腺腫脹(主として結核)

と云うことになる。

以上甚だ不完全なものと思ふが少しでもお役に立てば幸と思つてゐる。

及川ふみ

で、保育のすべてはこの健全な身心の發育を主眼とする保育目標に向つて一路邁進する事である。

しかも戦時下の今日、この躰の問題については既に年を重ね、お互保育者の間に種々考究せられ、且つ實施せられてゐる事

であつて今更事あたらしく擧げる何物もないのであるが、たゞ躰としてその實行といふ點についてたへざる反省が最も緊要な事である。

躰は身心一如として實行の出来るものであるが、比較的身體的鍛鍊の部分の多いものと、精神的鍛鍊の部分の多いものがある。

身體的鍛鍊によつて幼児の健康の維持、増進をはかる事は云ふまでもないのであつて、精神的鍛鍊は幼児の健康状態の良否に直接に密接な關係にあるものである。したがつて身體的鍛鍊が躰の根本となつてゐるのも幼児の躰の本質である。

こゝに幼児の幼稚園或は保育所においての一日の生活の間において特になされてゐる躰の實際について反省をこゝろみてみる事にする。

一、保健的の躰

登園直後の含嗽

仕事の始め終り時の手洗

歩行訓練

食事前後の手洗及び含嗽

用便

其他

一、精神的の躰

禮儀 整容

感謝

仕事に對してのねばり

我慢強く

動植物を愛護する

物を大切に

其他

など考へられる。

朝の挨拶

登園後直ぐに保母に對して朝の挨拶をする。これはごく簡単なことではあるが、始めからしないと途中からはきまりが悪くなつて、こんなやさしい事も出来ない事もあるから入園最始から躰なくてはならない。友達同志は保母の指圖によつて一同一緒に朝の挨拶をする。

含嗽手洗

とりわけ冬季、傳染病の流行期などには含嗽を充分にすること、乗物によりて通園するものはことに手をよく洗ふ事。

各自の所持品の始末

お辨當その他のものを所定の場所におく

事。この際、ものを大切に取扱ふことなどについても注意する事。

用便

用便の習慣はある點まで時間的に習慣がつけられる様であるから仕事にかゝる前に用をたしておいて、お話の途中、遊戯の途中などみだりに席をはづして用便にゆかない様にすること。

感謝のことば

幼児は全面的に自分の受持の先生などに對して信頼してゐる。そして敬愛してゐるのであるが、これについて別に感謝を言葉であらはず機會はない様であるが、幼い時から、保育者ばかりではない他人から何かしてもらつた時に感謝を言葉であらはずこゝも躰ておく事もよい、これをお話のときなどに實際實行して見る事も一方法と考へられる「アリガタウエザイマス」と言葉をもつて感謝を表はす、これは保母自身に禮を云はせると考へるのではなくて、お話をきかせてもらつたのでお禮をいふといふのであつてその躰をするのである。

我慢強く

遊戯、體操などの様な場合身體的鍛鍊の

時には、とくにこの我慢強くする機会が多い。一人一人の歩行訓練なども我慢強くすることにもなるが、大勢の人と一緒に行動する時に落伍しない様にする事など集團的保育を受けてゐる時にだけ出来る様の一つである。隊伍をととのへて歩く事は大人には大した努力も要しないが幼児たちの日常をみてゐるとお互に先を争つたり、道草をしたりする事も多いからこんな機会に狭いのであらう。

後片付

手技、自由遊びの場合にはこの後片付の時間の餘裕を與へて幼児が實行出来る様にしたものである。ことに手技などの場合、幼児も保姆も仕事それ自身には熱心であるが、後片付の餘裕もなく過すことが往々にしてある。自由遊びなどの後片付もなか／＼實行がむつかしい、砂場、おま／＼、ご道具、積木などの片付は充分によく躑たいものである。

動植物の愛護

これは觀察と最も關係が深いものである。季節々々のものゝ種を蒔き、培つてゆくうちに觀察の機会が度々あると同時にこ

れ等に對しての愛護の念も自然に湧きおきてきて、水をやつたり、除草をしたりして楽しみながら自ら幼児に與へるところが多い。花をみだりに摘みとつたり、枝を折つたりする事も自分の育てゝある草木などには出来ないことである。簡単に栽培出来るお葉類などをお辨當の時に汁の實にする事など幼児たちはどんなに満足する事であらう。

お辨當時の躑

この時にはいろいろの躑をする機会が多い。

食前の含嗽手洗

感謝 崇神の念、戦時下皇軍に對しての感謝

靜かに 言葉少く、よくかむ事
好き嫌をせず 食へのこしをせず、綺麗

食器の後片付を丁寧に

食後の含嗽
食後の挨拶

食後はしばらく靜かにすること

食事中には以上のいろいろのよき習慣を養ふ機会が多い。

一日の遊びの後片付

一日の遊びが終つて歸る前には室内、戸外の後片付が大事なことである。遊び道具の後始末、繪本、積木、おま／＼ご道具など整理整頓はもとより、紙屑などを拾ひあつめて幼児たち出来る範囲の片付をする。これは當番制にする方が責任をもつてする、ことに年長組のものには自分の部屋だけに止まらず幼稚園全體の整理をさせる事などもよい。

整容

幼稚園、保育所より下降する前に一應幼児たちに整容の時をもたせる事。

被服 ことに前掛、ハンケチなどの汚れたまゝ、顔や手の汚れなど注意して汚れたまゝ歸らない事などに習慣づける。

この戦時下、粗衣、粗食に甘んじざる事はあつても、整容といふ點は大切なことである。

勤勞の手傳

小さい幼児たちにこの勤勞といふことはびつたりあてはまらない様な氣持もするが外に適切な言葉がないから勤勞としておくが勤勞の手傳である。小さいながらも自分

の事は出来るだけ自分でする。尙大人の手傳をする。人手のほしい今日簡単に幼児に出来る用事は幼児がするといふ事である。

一ヶ月のうちある日を定めて幼稚園の草取りする。或は園藝の手傳として畑の石拾ひ、土運び、或は部屋の出の整理、整頓など幼児相當に出来る仕事もある。幼児には一齊制とか交代制とかいふ形でさせる事が割合によく出来る様である。個人々々とするにはおぼつかない所がある様である。

以上保育の一日について躰の實際について一通り考へて見たのであるが、この外まだ、躰の機會も多くあらうし、又その方

遊戯について

福田 静子

幼稚園に於いて、幼児の體育運動としては、體力遊び、自由遊戯、音楽を伴ふ遊戯（唱歌遊戯、律動遊戯）があるが、私はここに音楽を伴ふ遊戯についてその取扱ひ方を考へてみたいと思ふ。

遊戯の指導方針

法もいろいろある事である。

要するに相手は素直な幼児たちである、こちらの仕向け方によつてよき習慣をつけられる事も多いと同時に又、その保姆の努力に對してのひびきもあはれいものでもある。いづれにしても幼児の躰はたへざる保姆の努力によつて培はれるものである。

その方法は實際家の創意と工夫によりて實際に築きあげられるのであるが幼児と相談の上、この月はこの點に特に皆で氣をつけませうといふ様に、ある期間中一つの躰の事項について反省する方法なども具體的の一方方法であるかとも思はれる。

遊戯の選び方

この時代の體育は幼児の生活活動を出発點としてゐなければならぬ。幼児の生活運動は精神と身體とが未分化の状態に於いて活動する故に、原始的自然的な運動となる。従つて遊戯の材料は幼児の生活に適合し生活事象の遊戯化されたものでなければならぬ。そして、どびたくてたまらぬ、走りたくて仕方がない、常に動きたい幼児の活動性を壓へつけない爲に、活動的な動作を含むものでなければならぬ。幼児の身心にびつたり合つた原始的な直線的な表現であるか否かを顧慮して、それに適合した運動をもつた遊戯を選ばなければならぬ。

幼稚園の遊戯は、幼児の生活活動を基とした自然的運動によつて、身體活動の喜びを喚起し、身體各器官の強健を圖り、以て健康の基礎となし、快活な心情、公明な態度を養ひ、自我を捨て、規律、勇氣、忍耐、協同、團體精神を涵養することである。

遊戯指導上の諸注意

ここで、音楽を伴ふ遊戯の中には、唱歌に動作のついたものも多いから、先づ歌の選擇にも意を用ひなければならぬが、幼稚園の歌は、拍子は、 $\frac{2}{4}$ 拍子、 $\frac{3}{4}$ 拍子、 $\frac{4}{4}$ 拍子で、簡單なりズムをもち、八小節乃至十二小節、長くて十六小節よりなるもの、しかも子供らしい簡單快活な歌詞が長くて三節まであるものを選びたい。

○各遊戯特有の運動目的を達成すること

各遊戯はそれ／＼何かの運動目的をもつてゐるものである。例へば「オフホ」の遊戯で上體を前に曲げたり後におこしたりする動作があれば、それは胸や脊の運動となる。兩手を上に擧げるにしても胸を張つて兩手をぐんと伸ばすのさうでないのとは、胸の發達に大きな相違がある。足踏みにしても、意識してリズムに合はせ、適當の高さに擧げるのと、たゞむやみに足を動かすのとは、運動量にかなり影響するものであるから、その遊戯に於いて各動作が身體に及ぼす影響を考へ、身體のどの部分の發達に力あるものであるかを考へて、擧げる時はきちんと擧げ、跳ぶものは高くそれ／＼の運動目的を達するまで、反復練習しなければならぬ。

○表現に於いて形よりも活動性を重んじること

これは選ばれた遊戯にどんな動作かついてゐるかといふことに關係する問題であるが、幼稚園の遊戯は幼兒が自分の樂しみとしてする事で、人がみてゐる見てゐないは問題ではない（その點、舞臺上の舞踊は人

に見せるもので、それをする常人にはかへ

つて苦痛を伴ふことがあるかも知れない。幼兒は樂しみの中にその順序を覺えて、作者の工夫された目的が知らず／＼の間に、其の心情にふれ、身體の動きが自分のものとして氣持よく表現してゐる間に、充分な運動量のものとなり、運動慾を満足させる事が出来るのである。そしてそれが心身の發達を促す基となつてくる。従つて私共は幼兒に、細織な線の柔かさ美しさを要求したり、大人の表現を直ちに幼兒に強いる事は出来ない。幼兒には、子供らしい表情がある。或程度の暗示、示範の後には、子供の身心にびつたり合つた表現を求めなければならぬ。

○各遊戯の配合を考へること

イ、一つの遊戯はこの様に何か運動目的をもつてゐるから、時間中に行ふ種々の遊戯曲目についてそれ／＼の運動動作の強度に留意し、各曲目の特徴が互に相倚つて過勞にならず容易に身心鍊成の實を擧げ得る様幾つかの遊戯曲目を適當に配合する事が肝要である。非常に活潑なものゝあとには沈靜劑として靜的な動作のものを加へるこ

とにする。「カッチン／＼時計屋の時計、てんでにお手々を振つてゐる」といふ時計の遊戯は、坐つて兩手を胸に交叉してとり、リズムに合せて頭を左右に振り、次には胸にくんだ手を開いたり閉じたりし、三回目は上體を左右に振る動作であるが、跳躍的のものでなく比較的靜かに出来る遊戯である。

ロ、遊戯は又、土地の情況、時期天候に留意しそれ／＼に適合したものをとり入れて配合すること。例へば、七月にもなれば、夏むきのものに「水あそび」「海」「ホテル」「メダガ」等が擧げられるし、當今の時局向きものとして「國旗ふれ／＼」「水兵さん」「飛行機」等がある。寒い冬の日には暖かくなる事が第一であるから跳躍的な汗の出る様な動作のものを多くしなければならぬ。お天氣のよい日に「雨が／＼降つてゐる」と云ふ様な遊戯もおかしいと思ふ。

ハ、幼兒の身心發達を考慮し、年少組より年長組になるにしたがつて簡単な運動のものより複雑な運動のものへと漸次その程度を高めたものを多く行ふことにする。

○常に態、姿勢の指導に留意すること

遊戯の時間の始めと終りには「氣ヲ付ケ」の正しい姿勢をとり、敬禮をする。正しい姿勢は氣分をひきしめ、次におこす運動へよい影響を及ぼすものである。時間中御前へかけ出さない様、遊戯の前に注意しておく事。又一人づゝ歩行の練習をしたり、一拍跳びをしたりする際に自信のない幼児はする事を厭がり、之を見て笑ふ幼児もあるが、満足に出来なくても、先生の命令通りに動く快活な態度や勇氣をつくりたいものである。或は又「いもむし」の遊戯をする。これは五、六人が縦一列になつてしゃがみ、前の者の肩につかまつて歩く運動であるが、一人でもしやがんだまゝ動かなくなつたり、肩の手を離したりすると出来ない遊戯であるから、團體精神とか、團結の心構へをつくるのによい遊戯である。「汽車」の遊戯で何人かつながつて車を廻しながら一拍跳で前進する動作がある場合、これも又不面目な者があると全體がくずれてしまふから「いもむし」と同様、全體の爲に規律を守り協同する氣持を涵養し、團體訓練へ導入しなければならぬ。

○一斉指導の際にも各幼児の個性、能力に

充分注意し、それに應じた取扱ひを忘れてはならない。例へば幼児體操を全體で行ふ場合、全體が揃ふ爲に、出来ない幼児には一通り出来るまで、手足の伸びないところ曲らないところを指摘して補助し、運動神經が發達してゐる幼児には、更に高度の能力を發揮し得る様、勵みを與へたい。

○其の他の注意

イ、遊戯は室内で行はれることが多いが、出来れば戸外で行ひたい。

ロ、新しい遊戯曲目は大體一週一曲の割合でとり入れ、この他は、既習のものを反復する。

ハ、遊戯の時間は三十分乃至四十分位が適當ではないかと思はれる。

私共保母は大體以上の様な注意により、遊戯曲目の研究、指導の工夫につとめ——その遊戯を最も容易に幼児に消化させるに

談話の指導

談話は唱歌、遊戯、手技の如く他に示す

は、どの部分の指導に重きを置くか、といふ事や、同一遊戯でも取扱ひ方により、様々に變化する事が出来る。例へば「オフネ」の遊戯は一曲の中に、舟を漕ぐ動作、波が揺れる動作、船べりをたゞき拍手をする動作によつて構成されてゐるが、始終、この動作をするばかりでなく、この「オフネ」の曲に合せて、始めから終りまで、坐つて舟漕ぎの動作をしたり、立つて舟を漕いだり、或は二つに分れて一方を波にして、両手を前においてゆらく揺れる動作をし、その間一方は舟漕ぎをしたり、圓形に坐つて上手に漕げる舟を圓内に出す等、同一遊戯でも定まつた振付けの通りに動作しなくても種々變化して面白く取扱ふことが出来る。

——面白く興味あるやう、常に熱誠と潑刺とした意氣を以て、幼児と共に唱ひ、共に運動したいと思ふのである。

安村 ぶ さ

等といふ現實の成果はないが、幼児の心の

糧として其の精神的成長に最も重要であり、且つ最も喜ぶところのものである。

談話とは極めて廣い意義のものであつて、所謂童話は談話の一部である。談話を保姆の働きかける側からいへば、大體童話と話合ひに分けられる。話合ひには時局的な話や觀察を主體とした話、及び自由な題目で語りあふものも入れられる。又談話を幼兒の話す側からいへば童話と自由發表とに分けられると思ふ。

扱、幼稚園、或ひは保育所で普通に行はれる保姆の話す側の童話、話あひの扱ひ方に就て述べてみよう。

選び方 童話を選ぶには幼兒の年齢をよく考へる必要がある。幼兒は年少の頃には韻律のあるものを好み、稍々長じては空想的なもの、又學齡の近くには戦争等の勇ましい話又冒險的な話を好むものである。扱、保姆が此の事を基礎とし、「あの幼兒達」を頭に置いて適當なお話を、と多くの童話本を漁つても容易に見つからぬ。併し夫は其の儘話さうとするからである。探し得たものを素材として自分の話しよい様に幾分改作しなければならぬし、

又其の必要もある。讀む童話と話す童話とは自ら違ふからである。長すぎるものは短く、短かすぎるものは長くする。殘忍、悲哀のもの、環境にそぐはないもの、思想のこみいつたものは省く。そして、明るい健康的なもので、幼兒の生活を建設的ならしむるものなと心がける。尙、各地方の傳説等は其の地域の幼兒達にとつては最も密接なものであるから、大いに採り入れ、よろしく郷土愛の一助にも致したい。

話あひに於ては、童話とは少し趣が異り、保姆と幼兒の兩者の活動がみられる。其の際保姆は話あふ題目の選定に特に意を用ひる。近頃では刻々に聞く戦果等が適當であらう。又季節の推移等も觀察と相俟ちとりあげるにふさはしいものである。

話し方 扱、幼稚園、或ひは保育所に於て保姆が童話を話す場合には特別に大げさな身ぶり、手ぶりは却つて滑稽である。極く自然な、さらりとした態度が好ましい。私は幼時を田舎に過したものであるが、「お話」の事をおもふ度に、祖母がちろ／＼燃える爐邊で話してくれた事を思ひ出す。火のぬくみと、お話の面白さに身も心も溶け

る様な快い感じ——。夫以來お話は爐邊の味があるのが上手と、私はきめてゐる。又どんなに一生懸命お話してもあの祖母の素朴な愛のもつた話ぶりに遠く及ばない事を齒がゆく思つてゐる。幼兒を愛し、お話を愛してゐれば、特別の技巧を凝らさなくても幼兒は喜んで耳を傾けて呉れるものである。そして、話者は各々自分の持ち味があるのだから、それを活かしてよろしいと思ふ。たとどんなお話の場合でも話者は沈潜した氣分ではいけない。明るく朗かな氣分でお話になりきる事が大切である。そして極く分り易い言葉を用ひ、あのう、それでね、しちやつた等の好ましくない言葉は避ける。各地方の訛などは、其の幼兒達にそれしか通用しない場合は是非もないし、又夫を使用しなければ親密さにも缺けるから仕方がないが、其の他はなるべく正確な正しい言葉を用ひ、鼻音等は極力避け、發音正しく語尾を判然と自然な聲で話したい。話の途中で幼兒はよく質問したり聯想したことは挿入したりするが、黙つて／＼等と抑へず一應は取り上げて本筋の方に直ぐ戻す様に仕向ける。尙年長組になると童話を

朗讀して聽かせる事も出来る。此の際はなるべく話の口調でなし、繪を見せるとかの工夫をなして興味を持續する様に仕向ける。尙申すまでもない事であるが、お話は充分に熟知してゐてすつかり自分のものにして置く事は以上述べた事の前提として當當起る事である。

お話の場所、時間 話者たる保姆の位置はどんな場合にても話者の背後に幼児の注意がそれる様なものゝない事を必要とする。そして光線は話者の前面からあたる方がよろしい。即ち室内であれば、壁、黒板等を背景にする様工夫する。戸口近くは出入りの度に氣分を妨げられるからなるべく避ける。戸外であれば、樹蔭とか草原、芝生にしても注意のされない様な場所を選ぶ事が大切であらう。話者は幼児より稍々高めの椅子にかける。幼児は其の前面に半圓形になるべくお互ひの間をつめて腰かける事が望ましく、又實際話し易い。遊戯等の場合の様に周囲上に幼児が位置をとつたり、話者が壇上に立つたりするのは、幾分演説的な氣分になるから、よろしくない様に思はれる。多人数の場合は普通學校等で

行はれる様に、長方形でよいと思ふが其の場合もなるべく話者に接近し、お互ひの間をつめる方がしつくりする。

お話は隨時隨所に於て行はれるのが本體であつて、幼児がお話をとせがむのに無でに却けたり、望んでゐないのに無理に押付けたりするのは、最も心ない事である。併し、大抵の幼児は本來お話を好むもので、氣分の落着いた疲労感のない朝等は殊に大層喜ぶ。お話の回数を経験によれば、一週間に三、四回、時間も十分位から十五分乃至二十分位がよろしい様である。即ち年少組であれば稍々短かめに、年長組であれば相當長くしても差支へない。兩者混合の組では年少者を標準にした方がよい。幼児はお話が大變氣にいつた時、氣分の落ついた爽かな時等は「もう一つ」とせがむ事が多いから保姆たるもの平生より多くのお話を用意して置く心がけが大切である。

扱 次に幼児が話す童話、自由發表であるが、幼児は模倣性に富み、優秀なこどもならば、保姆の話した童話を殆どその儘くりかへす。又家庭で聞いた童話なども仲々よく覚えてゐて發表する。それを要求する

のではないが、他人の面前で少しも慮す事なく自分の意見を述べたり、經驗を發表したりする事は非常に大事な事である。斯様な事は幼時から躰けておかないと、大きくなつてからは恥しいといふ氣持が先に立つので駄目な様である。談話の使命は、この保姆の話を聽く事と、幼児に話させる事の二つで達成されると云ひ得る。幼児に話させるには、月曜日に日曜日の出來事を發表させる、といふ様な方法で入つてゆくのが最も自然である。此の際、最初に話させる幼児は、積極的な恥づかしからぬ子供を選ぶ。そして一回は極く少人数にし、氣永に繰返して凡ての幼児が大勢の前で發表し得るまでに導く。發音の誤りとか、餘り突飛なでたらめ等は訂正する必要がある。

最後にお話を聽く様であるが、之も他の諸々の様と同様に、入園或は入所の最初から、姿勢を正しくして靜かに聽くといふ風に仕向ける。又お話の前に用便をさせて置いて、途中で立上る等の事がない様にする。又聞き終つたならば、有難うございました、と感謝の言葉を述べさせる事も大層よい事である。お話が其の幼児達にとつて愉快で

面白い時には、幼児は大抵おとなしくお話に吸ひこまれてゐるものである。お話が幼児達の年齢に、或ひは其の時の氣分にそぐはなくて面白くないが、話者の話し方に生氣がなく、滯滞したり、非常に拙劣な時は私語したり、いたづらしたりする傾向があ

手技の導き方

手技とは、繪とは別に、材料を用ひてつくる仕事の意味に用ひられてゐるが、今はその意味を廣く用ひて考へてみたい。

先づ、種類は、繪(お畫かき)、切紙(鉄仕事)、メリエ、紙仕事、粘土細工、織紙、折紙、木工、自然物應用製作、豆細工、きびがら細工に別ける。その中豆細工ときびがら細工は現在その材料の關係又あまり効果もみられぬ爲殆んど用ひられてゐない。

普通一般の概念では手技は一定の材料で一定のものを上手に作れば好いと考へるが、幼児の手技は、材料は立派でなくとも、紙片でも、庭にある草木でも、好い、それを

る。そんな際、幼児達にお行儀よくしなさいと要求する事は誠に當らぬ事である。話者たる保姆は、幼児達の氣分を自分の方に集中させる丈の技倆と、度胸を積む様、平素から研究する事が最も大切である。

上遠 文子

幼児自身の手で何かの形に下手でも作り上げるその事が幼児にとつての遊びであり、訓練でもある。即ち結果を批評するのでなく、その過程を重んじると云ふ事は幼児の手技にとつてよく知つておかねばならぬ。

(一)工夫力、忍耐、考案力を養ひたい。一つの紙片に過ぎぬものも工夫によりいくらかでも活用出来ると同様、幼児も小さい紙にても一つの工夫をこらして、又出来るまで考へてやる様にと、工夫をこらす事の興味、途中でやめぬどの忍耐力を養ひたいものである。あきつばい幼児が居る。少し意の如くならず出来ぬと嫌になり「つくつて」

と持つてくる。「はい、はい」と手を借すのも好いが、幼児と共に考へ、暗示を與へ御手傳の程度に依り、興味を引おこす様それを誘導しなければいけない。時に、強ひても駄目な幼児には翌日の製作を約し、一度止める。その時、翌日は必ずこれを繼續する事は大切である。又こうしたいが、どうやつても出来ぬと困つてゐる子供には手をかしてあげたい。少しなりとも暗示を與へれば幼児は夫れに光を得て、又進みうるであらう。大人が手を借してはいけぬと頭から決めつけるのも、此場合折角の芽ばえも伸びられぬわけゆゑその點よく別けて指導したい。こんな小さい事でもちよつとした機會にもその指導に依り工夫力、忍耐、考案力が養はれる事を忘れてはならぬ。將來偉大なる發明もその考案力、工夫力のもたらず所となるゆゑ、大いによき指導をした

い。

(二)手技をする上の様。手技は作る事だけで、生活訓練とは別、又觀察とも別等と申しますが、決して幼児の生活に折込まれてゐる手技は、その中に生活訓練あり、觀察ありで別々に存在するものではない。

(イ)姿勢を正しく仕事をさせたい。(ロ)道具類及材料を大切に取扱ふ様にさせたい。(ハ)帳面は順次に用ひる様にしたい。

(ニ)後仕末、道具の片附、切屑の仕末をきちんとさせたい。(ホ)仕事をする時は黙つて一生懸命やりたい。年長組ともなれば約束として、下手でも一生懸命やれば必ず出来る様になると云ふ事は常に話しておきたい。(ヘ)左手を用ひて書く幼児はこれを矯正させたい。以上一般的の生活訓練ではあります。個人々々でもその人に時々練習し、緻密な又整理的な、落着いた気分を養ひたいものである。

(三)題材の選擇法。自然の中で家の中で又街で喜々として遊んでゐる幼児の生活の中に如何にして手技を折込ませたらよいであらうか。幼児が楽しく喜んで手技することこそ手技の使命であり目的であらう。その材料も選擇を誤らぬ様に添ふ機考慮せねばならぬ。

(イ)幼児の簡単に出来るもの。(ロ)幼児の喜ぶもの興味あるもの。(ハ)幼児にならなく關係あるもの。地方により環境により大いに郷土色を取入れてやりたい。(ニ)観

察をも折込んだものもやりたい。(ホ)年中行事、季節も考慮に入れてしたい。(ヘ)科学的なる玩具をも作る様にしたい。(ト)國民的なるものも作りたい。(チ)手技を擴大し應用して誘導保育をやりたい。(リ)製作品は幼児が持つて遊べるものでありたい。前にも述べた様、幼児の手技はながめ楽しむものより、自分のものとして直に遊べるものを何より欲するのであり、又目的なのである。

(四)指導の仕方。

(イ)手技の機會を多く與へたい。度重ねると云ふ事は尊い結果を得る。お畫かき、切紙等特に、始め線の亂交でも書く度にその形は出来てくる様、練習と云ふ事は尊い事である。出来るかぎり機會をつくり手技に親しみを持たせたいものである。(ロ)正しい御手本を見せる様注意する。(ハ)保母は適當な手傳をした方がよい。前にも述べた様に畫きたいがどうしてよいかわからぬ幼児には畫きたい心を満足させる上からも又その方法に暗示を與へる様手持ち畫いてあげたい。お畫かきの時その手持ち畫いて上げる事は大切なのである。(ニ)誤

つた製作は正しく訂正し、不足の箇所は暗示的に相談をして導きたい。例へばお畫かきで現實と逆の場合はこれを教へ、又もの足りぬ場合は「どうしたらどうか」と相談する。次への進歩の助けをなすであらう。(ホ)一つの製作に一定の適當なる時間を與へる事。(ヘ)幼児と共に製作し、模範なる製作をみせる。保母でも勿論よい。お友達や年長の幼児の製作を傍觀させるのも又進歩の一つで特にお友達の影響は大なるものがある。(ト)賞める事も必要である。賞める事は幼児に自信をつけ、勵ましになり是非要求する所である。(チ)時に、少人数づつ仕事させ個人的に指導する。五、六人位づつ、交替に仕事させる事は此方の觀察もよく出来るし、幼児も落着き、個人的にもよく導く事が出来る。

近頃手技の材料も充分得られず、困難な事の一つであるが、すべて廢物利用の精神で、お畫かきには、畫洋紙の裏を、手技には古葉書などを種々工夫して活用し、材料としては充分に與へたいものである。

最後にお畫かきにつき一言述べたい。お畫かきも分類し、自由畫、寫生畫、聯

想畫、記憶畫(印象畫)模樣に分られ、自由

畫は比較的年少者には年長者に用ひる。

お畫かきも、その機會を多く與へ、あらゆる方面の繪を豊富に畫かせ度い。寫生畫は即ち觀察畫で季節の花幼児の周圍に存するもの、寫生は有意義で實物をよくみて畫かせたい。聯想畫は、お話など聞いて後それを畫に畫くので面白い。記憶畫は、種々あるが、日曜日など日曜日した事を畫かせたりする。模様は年長幼児の題材であるが、出來うるならば、實物を用ひてその羅列を種々工夫して畫きたい。實物の方が畫案の觀念は比較的入り易いのではないであらうか。年少者は線のみ畫く。形は容易に出來ぬ、しかしそれでよい。線の交亂で、線の羅列でそれでいてその幼兒には一つの繪であり、物であるのである。大人は一口に下手だと名附つまらぬ手助けをするが大いに畫かせて、大人くさい指導は禁物である。その時その線の交亂でも名を聞取り記しておくが好い。その中に、線はある電車の窓になり、車になりしてやつと形が整つて來る。それからの進歩は目にみえて、その進歩毎に大なる賞讃は勵ましとなるのである。

る。

以上手技の指導を簡単に述べたが、保母は常に手技に於ても研究し、興味持ち、新しいもの、新鮮なるものを案出し、時代に即した手技をやらせたいものである。從來のもの、長所は取入れ、短所は改善し、常に新しい活力ある製作をする様心がけたい。

觀察について

觀察の意味など今更言ふ迄もないが、他の保育項目のどれもがさうであるやうに、子どもの遊びの生活の中にあるものであるからそれを充分考へて指導してゆくのがもとであらう。子どもは大人が想像する以上に何でもを驚異してみ、感じ、楽しんでゐるのだから、それを正しく伸すやうに導いて、物事をぼんやりとみ過ぎず、何でもな落付いてみる習慣態度を養ひ、ぼんに淡い乍ら科學する態度のやうなものへと導き度いものである。

一、觀察するもの

ものである。

又幼児の發達過程等の研究もその指導上に大いに力となるものであるゆゑ進んでこれにあたり、その熱意と努力によりより好き指導を與へられる様心がけたいものである。

清水光子

自然物(動物、植物、礦物等)、自然現象、社會事物(年中行事も)などあらゆる事物が對象に選ばれる。子どもの興味あるもの、事を興味あるやうに扱ふ。

二、時、場所

保育全體がさうであるけれど殊に觀察は機會を捉へ、隨時隨所で行ひ度い、蟲の觀察にしてもある所そのまゝ、「先生こんな蟲があつた」といふ時そのまゝ、「きれいな翅ね、何してあるのかしらみておませう、あんなにして葉っぱをたべて」といふ風に興味を引出し乍ら觀察させる。又今日は幼稚園に

大工さんが入つた、植木屋さんが入つたといふやうな時、その仕事を邪覺しないやうにみせるのもよいのである。又幼稚園の中に限らず時には店をみに行つたり、お百姓さんの田植をみに行つたり、兵隊さんの演習をみに行つたり、或ひはお隣の軒にかけたつばめの巢をみに行つたりする事も望ましい。その様な場合大勢と、しよに観る時の躰も出来るわけである。斯うした観察と共に、一つのものをつゞいてみてゆくのもよいことである。おたまじやくしを保育室で飼つてみるとか、お蠶を飼ふとか、種子を蒔いて水をやつたり除草したりして大人の園藝の手傳ひを乍ら観察させるといふ事は色々な意味でよい事である。動植物のみでなく梅雨の頃のお天気を連続して観察してゆく事も亦よいことである。このやうに観察は機會捕捉といへ、決して無計劃、無方針であつてならぬのは勿論、充分計劃し用意して、しかもそれを真向からふりかささないで、ごく自然な形で観察させてゆくといふ風であり度い。

三、取扱ひの實際について

(一) 扱ひ方と整理

實物を、遊ばせ乍ら観察させ決してこの蟲は翅が何枚、足が何本とか花弁が何枚を数へるだけにならぬやうにしたい。手で足で目で耳で直接觸れさせるやうに、子どもの中から親たものを引出すやうに、その意味から観察だけをするといふより手技、唱歌、遊戯等他の項目に一しよにするのが望ましい。殊に観察は手技と伴つて兩方をいき／＼とさせる。寫生、切紙などで親方が養はれ、観つばなしでなく整理される、寫生する場合「こ」が斯うなつてゐるのね」といふやうに注意する事はよいことであるがそこに見えないものまで話してきかせないでもよい、そして押しつけないうに強ひないやうにしたい。

(二) 話し合ひと疑問

観察し乍ら自然と話し合ひの機會が多い。この話し合ふ機會は保育の最もよい子どもとふれあふ時であるから先生の智識をたゞひろげて話すのでなく子どもも發表をきき、引出し、子どもも同話させるやうに導いてゆく。大人は子どもも發表、言ひ度いとしてゐる所を察し、助け出す役目であり度い。又話し合つてゐる中子どもは疑問をもつ。

観察し乍らでなくともよく「どうして?」「なぜ?」ときいてくる。「これはね、こうです」と答へる事は容易である。が「こうしないで出来るだけ子ども自身に解決させるやうにする。物知り先生でなく子どもと一しよにやつてみる先生であり度い。氣まめに、手まめに「さあ、どうしてかしら」と一應こちらも疑問にして出来ることは解決の道を講じる、もしその疑問がむづかしい場合は先生は知つてゐても「どうしてでせうね、では斯ういふのはなぜかしら」と疑問をうつすやうにする、が同じく疑問にしても物の名やどこにあるとかいふ様なものは教へる。先生もわからない時は本でしらべるとしてなほざりにしない。兎に角疑問がどんな種類にしてもそのまゝなほざりにしないで行ける所まで究明する態度を先生がもつことは大切なことであらう。観察指導の大切な點は子どもの、新しい世界へも疑問を助け、ひろげ解決への道をつけるのに大人がまめに心とからだを動かす事ではないかと思ふ。

四、觀察話と繪による觀察

觀察話はお話の種類の一つであつて觀察

材料を扱つたお話といふので本當に觀察ではない。これで幼稚園の觀察が出来るといふのは大いに誤りであらうと思ふ。お話の内容が所謂童話でなく空想の要素がなく事實であるといふのみと考へてもよいのであらう。

又繪や寫眞をみせる事がある。これは本當の意味の觀察からいへば邪道であると言つてはすぎるかも知れないがまあ本當の觀察とは言へない。みせたいが實物を存分にみせるわけにゆかない場合、例へば軍艦、飛行機、汽車などのやうなもの、動物の中で身近にないものなどである。これはし方がないから選ばれたよい繪や寫眞で、話で補ひつゝみせる。しかし機會があればのがさずみるやうにする。飛行機がとんで來たら出てみるし、若し戦車が通つたら出てみるといふやうに、汽車に乗つてどこかへゆくといふ子どもがあればよくみていらつしやいと注意するやうに。しかしどうしても繪でも寫眞でもぜひみせねばならないといふより斯うしたものへの關心を深めるやうに導く手段である事を忘れないやうにし度い。

以上で保育項目の觀察の指導についてほんのざつと書いてみたがまことに不備で、盡せないで考へ足りない點のみであるが、これで全部といふわけでは勿論ないので、

自由遊びの指導

志村貞子

幼児の生活は遊びの中に精一ぱい發揮される。遊びの中に幼児の精魂が傾倒され、遊びに於て幼児の心身の發達が培はれてゆく。従つて保育に於ても自由遊びを基底としてよろ／＼の保育計畫が立てられるのである。

自由遊びとは幼児が自發的に自由に遊ぶことであるが、保育者の側からいへば、この間々幼児をその欲するところに任せて自由に氣儘に遊ばせておいて顧ないといふことであつてはならない。この自由遊びを適當に指導することによつてはじめて、幼兒の生活力を正しく存分に發揮せしめ、自由遊びをして保育の基底たらしめ得るのである。

研究しつゝどこまでも子どもと一しよに學ぶといふよりむしろ子どもの方から教へられ乍らやつてゆきたいと思ふ。

従つて、自由遊びの指導にあつては、先づ保育者自身の幼兒の生活に對する深い理解と、自由遊びへの認識が必要なのである。

自由遊びは幼兒自身の發意による遊びであるが自發的といつても、種々の遊具の力に依つ場合が多いのである。従つて自由遊びには遊具が一つの重要な役目をもつて入つてくるわけである。滑り臺、ぶらんこ、杵登り、砂場、積木、人形、ま／＼こ道具、繪本類をはじめとして一枚の紙片、木片、繩等から種々の自然物にいたるまで、すべて幼兒にとつてよい遊び友達である。したがつてこれ等のものを幼兒の年齢、性情、能力に應じて適當に用意し、幼兒の遊び相

手として充分親しませることである。尤も現今はこれらの資材が不足して來てゐることとは勿論で、新しく設備を整へるのは容易なことでないと思ふが、幼児にとつてのよい遊び相手は既製の高價な設備や遊具に限らず、むしろ創造性、工夫性に富んだものが喜ばれもし、また希ましいのである。保育者はこの非常の機會に、大いに工夫を練つて幼児と共に創造の喜びを味ふのもまたよいではないか。かくて遊具が幼児の生活に適合し、よい相手として與へられると幼児はこれらの遊具を機縁として種々の遊びを活潑に展開させるのであるが、保育者の側からいへば、この際、遊びの中に、種々の適切な生活訓練、躰をなし、幼児の好ましい心身發達への指導が積極的になされなければならぬのである、そしてまた、かかる幼児自身の自然な生活の姿である遊びの中に於て良き生活訓練がなされ、躰られるといふことは、幼児自身にとつても好ましいことであると思ふのである。

遊具を鄭重に扱ふこと、後片附をするこゝ等は遊びの種類や人数を問はず常になされ得る事柄であるが、年齢とすゝみ、能力

も發達して友達との遊びが活潑に行はれるやうになると、更にその社會の一員としての協同性といふこと、自分のものとしてでなく、皆のものとしての遊具を大切に扱ふこと、少い遊具を交代に仲好くつかふこと、人に譲ること、自制心、忍耐力等々の訓練もなしうるわけである。更にまた子供自身の旺盛な生活力にまかせておくと危険、亂暴に走りやすい遊びを正しい方向に導いて充分に活動させること、遊びの中に清潔の習慣を養ふこと等も保育者として常に心がけねばならない。この爲、保育者は、一部の幼児と遊んでゐる場合にも、廣く全體の幼児への注意を怠つてはならない。なほ保育實習等で、保育者が一組の幼児に數人ある場合には、一ヶ所に大人が集つて限られた少數の子供の相手になるといふ事なく、各々が、夫々の幼児の遊びを指導して、保育者の多いといふ事を意義あらしめたいものである。

斯様に、自由遊びは飽くまで幼児の發意、發展の力を尊重するといひ、幼児を自由、奔放に放任するのではなく、正しくない欲求、發展は嚴にこれを戒め、幼児の心身の

發達を正しく直く伸ばすべく保育者の周到な指導が加へられなければならないのである。かくて正しき指導はまた幼児にとつてもかかる指導を受ける遊びが自分等にとつて真に愉しき自由遊びである事を自ら悟らしめる筈である。

次に、保育者は幼児の自發的な遊びに就て適當な指導を與へると共に、新しい遊び方を導き入れてやり、幼児の遊びの生活を豊かにし變化を與へ、更に發展させる事が考へられる。即ち保育者は幼児の樂しむ遊びを數多く知つてゐる事、幼児に應じ時と場所に應じてそれ等を適當な形で與へることが必要となつてくる。

殊に入園當初、新しい生活環境に慣れない爲に遊びの生活に入れない幼児や、或は自由遊びの能力が足りない爲、遊べない幼児に對して、どんな遊びをどんな方法で誘ふかといふこと、また一つの遊びへの興味を薄くなつた頃遊びに變化を與へて新しい活潑な興味をもつて遊びを繼續させてゆくやうにすること、また幼児の好む遊びに何か暗示を與へるなり、具體的に手をかすなりして更に一層興味を高調させ、遊びを發

展させてゆくこと等、自由遊びに關聯して保育者の誘導の力に俟つ部面が多いのである。そしてまたこの誘導によつて保育一各項目を幼児の遊びの生活と極めて自然に且密接に結びつけ發展させることが出来るのである。例へば肩章や勳章をつくる手技が兵隊ごつこと結びついて幼児自身の興味を以て一層活潑に行はれることや、繩だけの電車ごつことが誘導によつて切符や信號旗がつくられ、さては驛々でおへんたうも賣り出されるといつた工合である。また就學の間近になつた幼児達の間で好んで遊ばれる學校ごつこでは適當な誘導によつて必要な學用品の製作は勿論、唱歌、遊戯、自由畫から幼児に好ましい諸種の躰までが、遊びの中に、一種のおこがれさへもつて、極めて興味深く、自然に行はれるのである。但し保育者の誘導によつて、始められた遊びに於ても、幼児の年齢、性情、能力、並びに時と場所等により適當な時に保育者は幼児に遊びの主役を讓つて幼児中心に遊びを展開させてゆくことが希ましいことは、自由遊びの場合と同様である。

自由遊びは幼児がその生活のあるがまゝ

の形に於て自發的に展開するのであつて、これに適切な指導、誘導を與へる事は以上述べた如く極めて重要な事ではあるが、かかる生活訓練の爲、躰の爲の遊びではないこと、各保育項目との密接な關係もどこまでも自由遊びの誘導としてあつて、項目の内容そのものが主となるのではないことを保育者は心構への中に充分入れておかねばならない。元來が自由遊びである。どこまでも幼児の生活力そのもの、發揮である。

防空訓練と幼児

空襲必至といはれてゐる今日では、幼児といへどもそれによる災害をまぬかれることは出来ないものである。隣組の月例防空訓練の如く、幼児もその集團する所に於ては、平素より度重ねて待避、避難等の訓練をなさなければならぬ。幼児の訓練は、要するに、待避等を敏速になす様にし、その間おどしたりして徒に幼児の恐怖心を起させる様なことなく「空襲物かは」の氣持を大人が

遊びが主であり、しかも遊びといふ極めて自然の形の中に於て必要適切な諸種の生活訓練、情操陶冶がなされ得るといふところに自由遊びの盡きざる妙味があるといへるのである。遊びの中の生活訓練、躰等々は保育者の心構へには明確に把握され、それが遊ぶ幼児へは、遊びを通して渾然と自然の形、融和した形に於て與へられる。かくて幼児は生活力を正しく、健やかに、樂しみつゝ存分に發揮するであらう。

關 登美子

常に持つてなすべきである。始めの中は、訓練日を決めて、毎月一回とか二回することにし、馴れて來たら不意にすることもよい。(東京都では毎月十九日が防空強化日であるから、附屬幼稚園では十九日に訓練を行ふ。)

防空服裝

近頃はよく路上でもモンペ姿の可愛い子供を多く見受ける様になつた。子供が先

生の手を借りないでも一人で着られて、その上實用的な防空服装を揃へて置くことが、必要である。(防空服装の詳細は幼児の教育昭和十八年十一月號參照のこと。)

防空服は常時防空帽子と共に肩からかけて、携帯させる。あの小さい子供にこれらの物を持たせることは、體力にたへ得るか、どうかの懸念もあるが、今の時局下に於て、かへつてお子さん自身の爲にも良いのでは無いかと思ふ。服装は、帽子(縮入れ又は合せ)、防空服(上衣、下衣)、手袋で、その他常時携帯の袋には別に、手拭ひ、三角巾、マスク、マキキロ、靴下又は足袋等入れておくこと。そしてそれらのものには、すべて、住所、姓名、血液型などつけ、服装入れ袋には、木札等で、表に幼児の住所、姓名、幼稚園名、年齢、血液型を書き、裏に縁者氏名を一、二名住所と共に書いておくことよ。

支度は平生より一人で手早く着られる様に練習しておくことが必要である。一人の保母で大勢の子供の支度を一度にすることは、とても手が廻り切らないのであるから、一人で出来る様にして置く。園児に依つて

見ると始め着られなかつた者でも、四、五回の練習で殆ど皆、一人で出来る様になつた。すつかり支度の出来るのに早い者は、三〇秒位であつたが、敏速にすることが、第一である。

帽子などの紐の結べない者は、とりあへず両手でぬけない様におさへて待避させる。

防空動作

イ、合圖

幼児が遊んで居る中を、不意に前知らせ無しに警報をならす。笛、太鼓、又はその他の樂器に依つて合圖をする。幼児には前もつて平素より、「この音がなつたら警報です」と約束しておく。合圖に依つて幼児は何處にゐても、すぐ駆足で先生の所に行き、そして直に支度をする。それからの命令その他は、メガホンでする。空襲及び警戒警報の發令、解除、敵機來襲、退去、待避、避難等のよく使ふことばは、よく前以て理解させておくことが必要である。

ロ、待避、避難

幼児の集團する所では、是非とも其處の人数が入り切るだけの防空壕が必要であ

る。壕の大きさ等については新聞等にも出てゐるのであるが、深さ一米二〇位、長さ幅は、人数に依つて異なる。入口は二方から作り、すばりの壕に簡単な屋根をつける。そして不斷から誰は何處の壕に入るなどと決めておくことも、いざの時に混しないが良い。又室内では机の下、中廊下などに待避する。敵機來襲の時には、「伏せ」を行ふ。「伏せ」の命令で直に両手で目と耳をおさへて伏せることも、よく出来る様に、練習しておく。待避中は、靜肅に、次の命令をよく聞く様に、相當長時間でも、我慢して机の下、壕の中などに入つてゐられる様に務めることが大切である。

次に狀勢によつて避難する場合、保母のあとについて出来るだけ、早くする。女學校附設の戦時託兒所の如く、大人の手の多い所では、不斷から誰がどの子供を連れて避難するか、決めておくことよ。出来れば一人の保母で三人の子供を連れて行く。一人を背負組にて背負ひ、他の二人を左右の手に一人づつ、つなぎ、行動を敏速にする(背負組は用意しておくこと)。その際、その他の子供は、子供同志手をつながせると、

一人が轉ぶと他まで轉ぶ様な事になるので銘々一人で跣足で先生のあとをにかけて來る様にする。そして一人で勝手な所へ行かず、先生又は大人と必ず一緒に避難する様に云つておく。皆一所にかたまらず壕又は植込みの中などに散らばつてゐることも場合に依つては良い。

ハ、態度

幼児には、先生のする通りに早くする様に云ひ聞かせ、少しの事で泣かないこと、先生のおつしやることを良く聞くこと等約束しておく。訓練中には、前にも述べた如く、空襲に對する恐怖心を起させる様なこと無く、保姆は平靜に敏速に行動すべきである。

保育室には、救急袋、又は應急箱等（副木も）備へ、非常の際には、保姆がそれを肩からかけて避難する。萬一にそなへて、幼児、保姆の血液型など調べて、何處か部屋目のにつき易い所に貼つておく。そして保姆は應急處置が出来る様、救急知識を養つておくことも必要である。例へばどんな外傷にも驚くこと無く、處置出来る様、保姆の平生の決意が大切である。

先日、防空訓練日の實習科生徒の日誌に、「子供が、練習の時の如く、さつさと着かへて、ついて來て呉れないとしたらどうしよう。私達は餘程しつかりしてゐなくてはいけない。命にかへても子供達を守つてやらなくてはならない。皇國の明日を荷負つて行くべき子供なのだから私達はきつとく、安全に守つてやらねばならぬ」と痛感する。

一日の保育計畫の立て方

菊池ふじの

自分の託されてゐる幼児達に、今日の一日を、或は明日の一日をどういふ風に過させやうかといふ問題は、斯の道に長く携はつてゐる者にも、況して新しく斯の道に這入つて來た保育者なら尙更のこと、考へる大問題である。

聊かの弛緩なく間隙なく、楽しき緊張の中に下降時の來たのも識らずに、「もうお歸り？」と驚き、「あゝ面白かつたなあ、又明日續きしやうね」と歡聲を洩らして歸つてゆく幼児達を見送つた時の保姆の喜びも亦

と書いてありましたが、本當にそうだと思ふ。

お國の大切な子供である。これからの日本を背負つて立つ子供達、將來ある子供達、やがては、大東亞の指導者となるべき子供達である。私達は幼児の防空訓練について、眞劍に考へ、實行して子供達を守りぬきたいと思ふ。

たとへやうがないのである。保姆の念願するところは只偏に、今日の一日を、幼児をして教育的に如何に楽しませ充實させてやるかに盡きる。

扱て高等女學校の卒業者或は高學年の人達は、この幼児達を喜ばせ度い楽しませ度いといふ幼児に對しての愛情に於ては、實に申分のない純情の持主であつて、幼児の爲にすることに於ては苦勞も心勞も厭ふところでなく、むしろその親切心の横溢をこそ適當に指導する必要があると考へられる

のである。

扱て保育案の立て方、或は一日の計畫の立て方に就て、どういふことを話し導いたらいふであらうか。

保育案の立て方

先づ幼稚園には、五つの保育項目といふものがあることを話す。そしてこの項目といふのは國民學校の教科目に當るものではないが、極くその大綱を示されてあるだけで、細かい課程とか進度とかいふものは何にも規定されてゐない。大ざつばと言へば大ざつば、自由と言へば自由なのである。

國民學校の教科目は兒童の興味や年齢に無關係に押しつけられてゐるものではなく、長い間、その道の専門家によつて究め盡したもので、その年齢の兒童に理解も興味も可能なものはかりを編成したものであるが、幼稚園の保育項目も亦子供の生活の外にあるものではなく、子供の自然の生活の中に満ち溢れてゐるものを抽象して言ひ表はしたまでのことなのである。五項目とは手技、談話、觀察、遊戲、唱歌の五つである。例へば、子供の生活を見てゐると、子供は始終、泥で、砂で、或は紙で、木の葉

で、草で何かを作つたりしてゐる。即ち項目の手技にあたる。又話を好むことは周知の事であるし、蟻やとんぼの出現にも目を張ること、即ち觀察せんとすることは説明するまでもない。又子供は氣分の惡くない限り、何かを歌ひ、喜びに乗じては手舞ひ足踊る(遊戲)といふ有様で、總てこの五項目は子供の生活と無關係なものではなくその生活の中にあるものなのである。

一日の保育計畫を立てるのには先づこの保育項目を基礎とし、これが偏らないやうにと心を配ることが大切である。これと同時に他方に於ては、季節、行事、場所といふやうなことを念頭に入れなければならぬ。五項目を如何によく鹽梅してあつても、それが幼稚園や保育所の環境(この中には季節のことも行事のことも場所のこともはいるのである)と無關係であつてはいけない。常に環境を念頭に入れ、或時にはむしろ環境から生じ來る興味の方を主體にして保育計畫を立てた方が、よく子供の興味に合致し、生き／＼と、喜んで、しかも教育効果を多分に擧げつゝ、その日を過すことが出来ることも澤山あるのである。

例へば九月の末頃或る保育所のある町に鎮守様のお祭りがあるとする。その頃はそのお社からは太鼓の音が聞えて來て子供達の心を刺戟してゐるに違ひない。この時に、みんなにそのお社のお話をし、花傘を作らせるとする。きつと、子供等は誠に生き／＼として製作し終へるであらう。保育案はどこまでも子供の興味のあるものでなければならぬ。

保育案の立て方實例 扱て保育項目本位の案の立て方に於ては、幼兒の一日の生活を、大體午前と午後と大別し、午後は概ね自由遊びに當て、午前に二項目位を當てる。その二項目は一つは子供から見受身の如く見えるものを、他の一つは、發動的と見られるものを配列する。例へば或る日の午前をお話と自由畫、或る日を唱歌と製作(風車)といふが如きである。併し受身といひ、活動的とは言つたものゝこれは極く皮相的な觀察から見た便宜上の言葉に過ぎないのであつて、子供がお話を聞いてゐる時とか唱歌を唱つてゐる時は、如何にも受身の如くに見えるけれども、お話を聞きながらの子供の心的活動は次から次へと想像力を旺

盛に動かしとしての活動であり、唱歌を歌つてゐる時も潑刺とした心の動きは決して受身などいふ靜的なものではないのである。

保育案は一年を一月を考へておく事は大切であるけれども、天候や行事等のもあるもので、長い期間のことはごく大まかな考をしておくのみに止め、普通には一週間の立てる週案が廣く行はれてゐる。一週間の保育案の大綱を假に示して見ると、

月	談話	()	自由畫	()
火	遊戯	()	製作	()
水	唱歌	()	粘土	()
木	談話	()	ぬりゑ	()
金	觀察	()	欵仕事	()
土	唱歌	()	自由畫	()

右の如く一週間に、談話三回、唱歌・遊戯二回、手技六回、觀察一回と割當て、見たが如何であらうか、この他に蝶の案があり、幼稚園としての行事があり、臨時のラヂオ放送を聞くこともあり、幼兒なりの畑いじり、體鍊行事、防空訓練等もある。

この各項目の下の括弧内に書き入れられるべき、何のおはなし、何を描く、何の歌

を、何を作る、何を観る、の何といふ具體名は、實にその幼稚園なり保育所なりの在所の季節と行事とによるものである。

尙ほ談話三回と言つても、その中には所謂童話あり、時局の話あり、觀察ばなしあり、又歴史の話あり、神話あり、人形芝居紙芝居ありで仲々單調ではない。手技を六回としても、その中にはやはり、自由畫、製作、ぬりゑ、欵仕事、粘土等種々あり、自由畫の中にも、全く幼兒の自由に任せる場合と、か、實物の寫生とか、或は聞いたお話の場面を表はすとか、今習つてゐる唱歌を繪に表はしてみるとか、いろ／＼變化のある課し方が出来るのである。併し注意すべきことは、仕事への熱心から、外遊びの時間を餘り少くしないやうにと心組むことである。

尙ほ、蝶と觀察の二項目は、子供と共にある生活に於てよくその機會があるもので、保姆はその好機逸すべからずとして隨時隨所に於て行ふのが最も普通であつて、一週間に一度の立案等するのはむしろかしいやうでさへある。併し案は多く立て、置くべく、準備は豊かにしておくべきで、むしろ盛り澤山な位にしておくのがよい。子

供の生活の動きによつて、削除することはいと容易であるからである。準備不足で慌てるよりは、盛り澤山にしておいて削る方がよい。

今、日本幼稚園協會發行の「系統的保育案の實際」に據り、幼稚園に入りたるの一週間の週案の細案を例示して見る(日や曜日は假りに定めた。)

四月一日 月

携帶品片附 躡(挨拶) 部屋、席、下駄箱、各自の道具入れ抽出をおぼえる、組のお友達の名を覺える、含嗽・洗手のこと) 談話(桃太郎) 自由畫(何でも好きなもの) 他の組を見にゆく、自由遊び

四月二日 火

携帶品片附 朝の挨拶 前日の躡をもう一度繰り返す 唱歌(みんなの知つてゐる唱歌、結んで開いて、マ、エト) 製作(輪つなぎ) 自由遊び

四月三日 水

(挨拶、躡等以下略す) 談話(ポコ) 遊戯(行進、結んで開いて、蝶々、一拍飛び(スキップ))

四月四日 木

觀察(幼稚園の庭を歩く、國旗掲揚場へゆき旗を掲げて見る) ヌリエ(ヒノマ
ルノハタ)

四月五日 金

唱歌・遊戯(前のを繰り返す、單調に過ぎるやうならマ、ゴトを新しく加へる) 缺仕事(自分の好きなもの)

四月六日 土

談話(富子さんの風船) 自由畫(自由)

注意 輪つなぎの用意、缺仕事
の用意をする。幼兒各自の筆箱の中のもの準備。

以上は、従来の幼稚園としての場合の立案例であるが、現在に於ては、保育用品、保育材料等の纏まつて販賣してゐるものは殆んど無いから、こゝに非常に頭を働かせなければならぬことになる。併し厚紙には古葉書とか、古箱等を使ひ、模造紙替りには謄寫版刷りの不用の紙の裏や、包み紙など、幼稚園や家庭に空しくしてある材料を活用するやうにすれば、保育資材はまだ／＼あるのではなからうか。場合によつては、資材を使はない保育といふことが大

いに考へられなければならないと思ふ。

誘導保育 以上は、保育項目を主體としてそれに季節、行事等を考慮しての所謂課程保育案の立て方に就て述べたのであるが、この立場とは違つた觀點からの誘導保育案と云ふがある。これは幼兒の生活興味を其日／＼、其場限りのものとせず、或目的の下に集中せしめて、或期間繼續せしめんとするものである。例へば「おもちゃ屋といふ主題の下に、おもちゃ屋の誘導保育案を立てたとする。これは、こまとか、風車とか勳章、刀など個々のおもちゃを製作して、それをを用ゐて遊ぶだけでも、幼兒には興味のあることなのであるが、尙ほこれを、おもちゃ屋といふ主題の下に計畫的に進め、次々に出来たおもちゃは、おもちゃ屋といふまとまつた目的の下に計畫せられたお店に陳列整理をし、賣買といふ極く簡単な社會興味をも合せて味はせ得るのである。幼兒の興味の有様を観察するのに、一つ／＼おもちゃを作つて遊ぶ時よりは遙かに大きな、そして長い期間生々とした興味を感じ、何事もおもちゃ屋の爲にといふ必要と動機から出發させられるので、興味繼

續は勿論のこと、その仕事へのは入り方に不自然さがない。現在國民學校の低學年に課せられてゐる綜合教育は實にこの誘導保育と軌を一にするものである。

然らば、この誘導保育の主題は如何にして決めるか、それは子供の興味のあるものであれば何でもよい。季節的な興味から取る場合もあらうし、家庭年中行事から取る場合もあらう。又社會行事から来るもの、純然たる幼兒の興味から来る場合もあらう。今試みに「系統的保育案の實際」に拾録せられてある誘導保育案の主題に就て分類を試みて見やう。

季節的な興味を主題にしたもの
田植、蟲の家、スキー場、水族館

家庭年中行事からもの
五月節句、七夕祭り、お月見、双六遊び、お正月、節分、糺祭り

社會行事からもの
秋祭り、時計屋時の記念日に基ついて

幼兒の興味本位のもの
汽車ごっこ、おもちゃ屋、動物園、八百屋、人形の家、紙箱の家、お花屋、郵便局

尙ほ「慰問袋作り」といふ、時局から主題を取つたもの、「學校(こつこ)」といふ或る時期(國民學校進學を控へた時期)に持つ興味から主題を取つたものもある。こうして實際に實行して見ると、前にも述べたのであるが、季節とか社會とかいふものは明らかに反映されるもので、春の「八百屋遊び」には春のお野菜が、秋の「八百屋遊び」には秋の景物が並べられ、幾度も實行した案ではあるが、同一といふことはなかつた。紙箱で作る町に於ても今年作られるものには、家々にはきつと防空壕があり、火叩き、防水桶等の防空資材が家々に備へられるであらう。

扱て、それならば、この誘導保育案と保育項目との關係は如何?それはこの目的の下に各保育項目が引っぱり出されるのが理想的だと言へるであらう。例へば人形の家に於て、人形の爲にいろ／＼の道具やおもちゃが製作せられ、人形の家の額として幼児畫が、又は畫帖が要るといふ風に。若しこの中に自然に織り込めない項目があるとすれば(實際としては唱歌・遊戯・談話など)それは課程保育として別個に挿入してもよい。

保育所、託児所の場合 以上は、従来の幼稚園に於て主に行はれ來つた案及び立案の仕方であるが、時局の要請に應へて目下増設を見つゝある保育所や託児所の場合はどうであらうか、幼稚園の場合と比較して受託児の数が多いこと、時間が長いこと、家庭が勤勞家庭であること、受託児の年齢や期間が區々であること等が擧げられるであらう。それ故に、幼稚園としてよりは廣い職能を發揮しなければならぬ。例へば、幼稚園の場合でもさうではあるが、忙しい母親なるが故に、尙一層、幼児の身の廻りのこと、――顔がよく洗つてあるかどうか、髪はよくとかしてあるか、衣服の汚れが代へられてあるか、爪が伸びてないか等――又顔色とか元氣とか健康に氣をつけたり、そういふことの実際の世話に朝の一時は忙殺されることであらう。それが濟めばやがて素食の準備、後片附、晝寝、お三時の世話と、それからその間に起る偶發事故等の爲めに、幼稚園に於ける如き案やその實行等は思ひも及ばないことかも知れない。この時局に、如上の案を例示するなど、はもつての外のこととお叱りを買ふことを

恐れたのであるが、併し、幼稚園に於ける如き、専ら幼児の教育の爲に、又幼兒を樂しませる爲にと、幼兒本位にいづばいに考へてゐる細かい案を保母の心の中に藏してゐるならば、いくら多忙でも、機會ある毎に保母の教育意圖がにじみ出で、無計畫、無理想にその日、その日の仕事を果すよりは、結果に於ても大差が生じ、保母としての満足感にも格段の相違が生じることと思ふ。

結び 最後に、保育案は常に用意はしてゐなければならぬが、さりとて、その案にのみ捕はれて、動きのとれないものとしてしまつてはいけぬ。保育者は絶えず幼兒達の生活の動き、興味の有様に注意し、臨機應變の處置を講すべきである。

熱心なる幼兒教育愛と、保育に關しての種々の技巧と、臨機應變の處置を講じ得る才能とを持ち合せてゐる保母ならば、いづ如何なる場所に於ても即座に、適切な具體案が湧き出で、幼兒に對してよき誘導指導が與へられ、且つその中に幼兒をして無上

× × ×

日本幼児飛行機獻納貯金に就て

日本幼児飛行機獻納貯金は、六月末日を以つて締切りしましたが、今尙ほ、御送金が絶えません。したがつて總計の確實なところは、今申し上げられませんが、皆様から送られた御熱心には今回もたゞく感じ入るのみでございます。「幼児號一機を」と皆様と共に念じて居りましたが、幸に第一回、第二回を合計して九萬圓を優に越えました。これ偏に皆様の御熱心の賜でございます。皆様どうぞ御喜び下さいませ。一寸、中間御報告を申し上げます。確實な御報告は、八・九月號に掲載致す豫定で、係りの者は只今整理中でございます。(編輯係り)

幼児の教育(月刊)

一ヶ月金參拾五錢
特別行爲稅相當額
送料貳錢

本誌は幼児の教育雜誌として存續を許されたもの。ごし
ごし御入會を希望致します。

日本幼稚園協會